

西日本支社に防災井戸設置

日さく 災害時に生活用水を提供

今年創業110周年を迎えた、さく井工事などを手がける日さく(本社:さいたま市、若林直樹・代表取締役社長)は、名古屋

市にある西日本支社の敷地内に防災井戸を設置し、名古屋市から災害応急用協力井戸として認定された。同市が発行す

る「あなたの街の地震ハザードマップ」に掲載されており、大規模地震などの災害が発生し、水道施設が使用できなくなった場合、地域住民にトイレや掃除などの生活用水として井戸の水を提供する。

完成した井戸には、同社が製造・販売を手がけるベローズ伸縮方式を採用したハンドポンプを用いている。動力源や呼び水を必要とせず、地下水位が50㍎の井戸でも揚水可能で、余計な力がかけることなくハンドルを上下させるだけで揚水できるため、停電時でも子どもから高齢者まで誰でも



誰でも楽に使用できるハンドポンプで揚水

ともから高齢者まで誰でも楽に使用できる。西日本支社周辺地域で井戸を掘削した経験か

ら、地下170㍎までの地下水には鉄・マンガンが多く含まれていることがわかってい

たため、井戸水の色や井戸内の腐食などを考慮し、井戸の深度は地下190㍎に設定、地下180㍎190㍎の地下

水のみを揚水する構造にした。水質検査では、鉄・マンガンは水道水質基準以下となっている。防災井戸の設置は、SDGsの達成に貢献するための取り組みで、西日本支社での設置は本社に続くもの。同社では「災害時においても地域の一人として貢献できるよう、万全の体制を整えている」としている。